

校訓

正しく 明るく 健やかに

令和6年3月13日

意思あるところに道は拓く



卒業生にとって品中が母校“ふるさと”になった日、3月6日（水）。私たちの心を映し出すかのように涙雨が降り注ぐ中の令和5年度瀬戸市立品野中学校第77回卒業証書授与式。記憶に残る感動的な式。『君が代』を歌うときの厳粛な気持ち。『校歌』を歌うときの誇らしげな気持ち。在校生による送別の歌『明日の空へ』を聴くときの切ない気持ち。卒業生による卒業の歌『群青』を聴くときの感傷的な気持ち。そして、最後の卒業の歌『ふるさと』を聴くときの温かい気持ち。卒業の歌は聴く人の心を大きく動かした。歌はいつも私たちの心に潤いを与えてくれる。

「日本の夜明け」から始まる品中の校歌は、その壮大な歌詞がとても魅力的である。胸を張って歌う子どもたちの姿がいつも輝いている。何歳になってもたいていの人が口ずさむことができるのが母校の校歌。いつまでも歌い繋げていきたい。

『品野中学校校歌』

日本の夜明け 遠き世に 祖先は早く 住みつきて
千歳を過ぎし 窯跡も あまたのこれり わが品野
町の名を負う 中学に 真理求めて 命かがやく

三国の高嶺 いる雲に 明日を創らん 夢えがく
心もきたえ わざ磨き 世界に開く 眼は清し
生氣あふるる 中学に 理想めざして われら 伸びゆく

岩屋の滝の とどろきて 城嶺橋下 鮎走る
日も夜も薫の 火は絶えず 煙立ち立つ 大空や
国を興さん 意気高く ここに学びて 行手 明るし

結びに、強く高い「志」をもち「勇往邁進」する卒業生へのエールを改めてここに記したい。

「地に足をつけ、行く場所、行かない場所、帰るべき場所、自分で決めて歩いて行く」